

一次研究用フォーム		データ記入欄		
基本情報	対象疾患	皮膚扁平上皮癌		
	タイプ			
タイトル情報	論文の英語タイトル	Pattern of regional metastases from cutaneous squamous cell carcinoma of the head and neck		
	論文の日本語タイトル			
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し （ 1 ）		
	ガイドライン上での目次名称	SCC-CQ2-2		
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー／メタアナリシス II. 1 つ以上のランダム化比較試験による III. 非ランダム化比較試験による IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズによる） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ IV ）		
	Pubmed ID	15944554		
	医中誌 ID			
	雑誌名	Otolaryngol Head Neck Surg		
	雑誌 ID			
	巻	132		
	号	6		
	ページ	852-6		
	ISSN ナンバー	0194-5998 (Print)		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 （ 1 ）		
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 （2 ）		
	発行年月	2005		
	著者情報		氏名	所属機関
		筆頭著者	Barzilai, G.	Department of Otolaryngology-Head and Neck Surgery, Carmel Medical Center, Haifa, Israel.
その他著者 1		Greenberg, E.	同	
その他著者 2		Cohen-Kerem, R.	同	
その他著者 3		Doweck, I.	同	
その他著者 4				
その他著者 5				
その他著者 6				
その他著者 7				
その他著者 8				
その他著者 9				
その他著者 10				

一次研究の 8 項目	目的	頭頸部皮膚 SCC のリンパ節転移と予後との関係を調べる	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究	
	セッティング	Carmel Medical Center	
	対象者	所属リンパ節転移を伴う頭頸部の皮膚 SCC 22 例の患者	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (15)	
	介入 (要因曝露)	リンパ節と耳下腺への転移	
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
	1	局所コントロール	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2	生存期間	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	3		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	4		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	5		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	6		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	7		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	8		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	9		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	10		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	主な結果	臨床的なリンパ節転移は、耳下腺リンパ節 50%、頸部リンパ節 59%、組織学的転移は、耳下腺リンパ節 68%、頸部リンパ節 45.5%、潜在的な転移は、耳下腺リンパ節 36%、頸部リンパ節 20%、だった。耳下腺と頸部リンパ節の両者に転移があった場合の生存率は 0 %、耳下腺のみは 60%、頸部リンパ節のみは 100%だった。	
	結論	所属リンパ節転移を伴う頭頸部の皮膚 SCC では、その他の所属領域（耳下腺や頸部リンパ節）に潜在的な転移が高頻度にある。また、両者に転移がある場合は予後が悪い。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	宇原 久	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 (IV) 耳下腺およびその周囲リンパ節と頸部リンパ節は頭頸部皮膚 SCC が最初に転移する部位として重要である。臨床的には耳下腺領域あるいは頸部領域のどちらか一方のみにしか転移が無い場合でも、も	

		う一方には潜在的な転移のある率が低くないので郭清の範囲について注意を喚起している論文である。画像検査についての言及はないが、リンパ節転移を検索する場合の範囲を決定する上で参考になる論文である。
--	--	---